

「3・11」映画化 聴覚障害者の



「災害時は互いの助け合いが大事だと思う」と手話で伝える映像作家の今村さん

耳聞こえない映像作家 東北で撮影

塩尻

映像作家の今村彩子さん(35)は名古屋出身。大震災で耳の不自由な人たちの状況を撮った映画「架け橋きこえなかった3・11」が16日、県内で初めて塩尻市で上映される。自らも聴覚障害のある今村さんが震災直後、「聞こえない人たちはどうしているか」と思い、被災地に通って撮影したドキュメンタリー。「長野も災害とは無縁ではない。この映画を通して、万が一の備えに役立ててほしい」と訴えている。

あす上映「支え合い頼り」

今村さんは名古屋市出身。生まれつき耳が聞こえなかった。小学生のころ、父親が借りてきた洋画のビデオを字幕で理解し、映像の世界に興味を持った。

愛知教育大在学中に1年間、米国に留学。映像技術を学んだ。帰国後、交通事故で手話ができなくなった聴覚障害者が直面する課題や、海外の聴覚障害者の暮らしなどを映像作品にしてきた。

東日本大震災では、聴覚障害者がどうしているのか気になったため、被災地を訪れ、被災者やボランティアと交流し、映像作品を作った。津波を免れた聴覚障害者の男性は、聴覚障害者の「命綱」ともいえる携帯電話が不通

になったため、安否の分からない仲間を捜し避難所を訪ね歩いていった。

その後も被災地に通い、取材を重ねた。特別支援学校の耳が不自由な生徒たちは、学校が長期休みにになり、手話で会話する人がいなくて不安をため込んでいた。

「架け橋きこえなかった3・11」は昨春秋、撮りためた映像を1時間14分に編集して仕上げた。「いざという時に頼りになるのは、人の支え合いだと思う」と、取材を通して得た思いを伝えたいという。

上映会は午後7時から、塩尻市レザンホール。当日券1200円(前売り千円)。障害者手帳を持つ人と小学生以下は半額。当日は今村さんも会場を訪れ、上映後手話で思いを伝える予定だ。問い合わせは実行委の中村さん(090・7845・0419)へ。